

**「キレイの力」プロジェクト
2016年度
活動報告書**



2016年度ウィッグ・サポーター活動 実施報告

<実施概要>

2016年のウィッグ贈呈活動に向けて、2015年11月～12月にかけてウィッグサポーター募集を開始。
全国の看護学校8校で説明会を実施し、854名看護学生に対してプロジェクトの紹介とウィッグサポーターへの参加を呼びかけを行い、76名がウィッグ活動を半年間行なった。
* ウィッグサポーターは、2016年1月から半年間パンテーンを使ってヘアケアを実施。

<説明会実施日・実施校>

実施日	時間	学校名	説明会 参加人数	プロジェクト 参加人数
11月10日 (火)	16:40～17:15	国立病院機構岡山医療センター附属 岡山看護助産学校	150名	27名
11月13日 (金)	14:40～16:10	播磨内陸医務事業組合立播磨看護専門学校	70名	5名
11月18日 (水)	13:15～14:45	東都医療大学	120名	13名
11月25日 (水)	16:20～	昭和大学医学部附属看護専門学校	200名	9名
12月3日 (木)	13:20～	深谷大里看護学校	45名	1名
12月10日 (木)	12:00～(昼休み)	横浜市立大学医学部看護学科	110名	5名
12月18日 (金)	13:00～13:45	藤田保健衛生大学看護専門学校	80名	15名
12月21日 (月)	13:10～14:40	大阪警察病院看護専門学校	79名	1名
合計			854名	76名

<説明会様子>



いくつかの学校では、キレイのカプロジェクト第一期生の栗橋登志さんがスタッフとしてプロジェクトについての説明を行いました。



大阪警察病院看護専門学校では、「キレイのカ」プロジェクトの説明会と一緒に、大阪警察病院の活動の一つである、がん予防に関する啓蒙活動で、大阪警察病院がん化学療法看護認定看護師玉田加寿先生による看護学生へのがん検診教育も行いました。

＜実施概要＞

2015年秋より、看護学校単位で説明会にて学生の参加を呼びかけ、活動開始。2015年度は76名の看護学生(下記参照)からヘアドネーションが集まった。
その後、2016年10月以降下記3ヶ所の施設へのチラシ設置、ウィッグを希望する女性を募集した。その結果、全体で15名のがん治療中の女性へウィッグをお贈りすることができた。
*ウィッグの試着・贈呈期間:2016年10月末～12月中旬

＜ウィッグ贈呈施設と人数＞

施設名	試着日	お渡し日	贈呈人数
NTT東日本関東病院	10月31日	11月14日	4名
昭和大学病院(旗の台)	11月25日	12月2日	2名
横浜市立大学附属病院	12月5日	12月16日	9名
		合計	15名

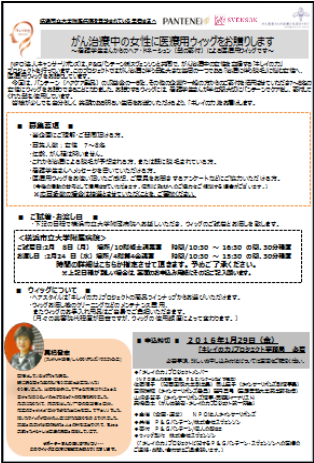
＜参加企業・団体＞

主催) NPO法人キャンサーリボンズ
パートナー) P&Gパントリー、株式会社スヴェンソン
寄付) 個人の寄付

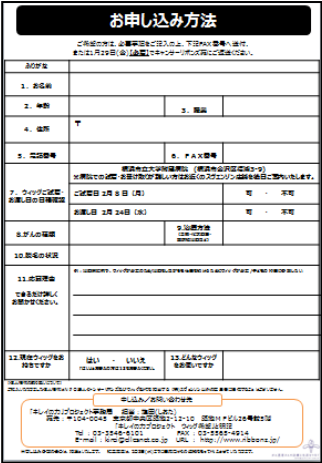
＜ヘアドネーション参加校＞

大阪警察病院看護専門学校、国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校、
昭和大学医学部附属看護専門学校、東都医療大学、播磨内陸医務事業組合立播磨看護専門学校、
深谷大里看護専門学校、藤田保健衛生大学看護専門学校、横浜市立大学医学部看護学科
計8校 (以上、五十音順)

＜告知＞ 下記チラシを各施設に設置・配布。



チラシ・表



チラシ・裏



栗橋登志
(乳がん体験者/しんゆりリボンズハウス副会長)

覚悟はしているはずだった脱毛。
鏡に映る凍った顔の私「もう笑顔は必要ないんだ」
そう思いました。治療を懸命にして下さる病院に行くことさえ辛かった時にキレイのカプロジェクトの存在を知りました。
元気になりたくて、病気を治したい一番の希望者は自分。
応募のきっかけは「自分で歩むために力を貸して下さい」でした。
頂いたウィッグが自分の人生に新たな彩りを添えてくれました。
笑顔と勇気が治療の継続と人との絆を深めてくれて、ちょっと
気取ったオシャレは魔法のお薬と感謝しています。

サポーターさんの想いがホックリ・・・
このウィッグは貴方にも微笑み添えてくださいます。

キレイのカプロジェクト第一期生の
栗橋登志さんからいただいたメッセージを掲載

<ウィッグ贈呈までの様子>

ウィッグの製作後、待ちに待った
ウィッグの試着を各病院にて実施



看護学生が約半年間一生懸命ケア
した髪の毛をまとめてスヴェンソンへ
お渡し、ドイツの工場にてウィッグの
製作を行う

ウィッグの試着を行い、お好みのスタイル
を決めていただく。その後、約2週間かけ
ておひとりずつに合うウィッグを製作。
贈呈当日も会場にて最後のウィッグ調整
を行う

<ウィッグ贈呈様子>

ウィッグをお贈りした皆さまから素敵な笑顔頂きました！



昭和大学病院でのウィッグ贈呈では、
実際にウィッグサポーターとして
活動いただいた看護学生さんも
立ち会い、贈呈式・対面式を実施し
ました。

看護学生さんと患者さんでメッセー
ジ交換を行い、お互いの思いを伝える
素敵な会となりました。



**ウィッグをお贈りした患者さんからの
直筆メッセージ**

今回、大変素敵なウヅクをいただき、外出をためらっていた為
本当に嬉しく、髪の毛を提供してくださった看護学生の皆さんには、
感謝しております。提供前に半年間もケアをしてカラーもせず
準備していただいたと聞き驚きました。ありがとうございます。

私は入院中にガン確定の告知があり、しばらくの間、病院内で
辛い時間が続きました。そこで支えてくれたのが看護士の方達です。
いつも声をかけてくれたり、現場に居る看護士さん達から知っている事を
話してくれたり、私を助けてくれました。(インターネットの情報は振り回されたりするので)
お医者さんは手術で私を救ってくれたが、

看護士さん達は、日々私に接してくれることで私を救ってくれました。
患者にとって看護士さんの存在は本当に大きいと感じた日々でした。

看護士の仕事は肉体的にも精神的にも大変な仕事だとは思いますが、
ぜひ患者の心にも寄り添える素敵な看護士に
なっていたらいいと思います。

私は、子宮体がん と診断され、抗がん剤治療を受ける事になりました。

抗がん剤が始まるとウィッグが必要！でも、経済的に無理！ そんなある日 このプロジェクトを
教えてもらいました。無料でウィッグがもらえると言う事ですぐに応募しました。

脱毛が始まると外出するのにヘア帽子が必然となり、人の視線を感じるようになりました。

人によっては、目が合っても視線をはずす事もなく、じーと見られる事もありました。

そうなると人前に出るのが少し怖くなりました。

ウィッグをもらえる事になり、初めて鏡の前でウィッグをした自分を見た時、ちょっと恥しかったのですが
それよりも髪があるって事が何よりうれしかったです。このプロジェクトに応募しておいてよかったと
思う気持ちとこのプロジェクトがあって本当によかったと思います。とても素敵なプロジェクトですね。

このプロジェクトに参加してくれた看護学生の皆さんありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱい
です。看護師って苦労が多く大変なお仕事だと思います。でも、私達患者にとっては何よりも強い存在です。
何年後にはお世話になるかもしれません。その時はよろしくお願いします。

今回、このプロジェクトのおかげでウィッグを頂く事が出来ました。本当にありがとうございました。

大切に使用させて頂きます。

15年前に手術をした時には腰まであった髪を切り、今回はさらに短くしました。
女性にとって髪は“命”の次に大事に思います。

一番おしゃべりしたい時、ヘアスタイルが決まり一日が幸福になれる日。外出する時の
おしゃべりは髪から始まります。ヘアスタイルがビシッと決まると、化粧をする前から
一日を幸せに過ごせそうな感じがします。その髪をカットもカラーもせず、
毎日の手入れを欠かさず、患者のためにと育てていたべき皆様の長期間の
努力に心から感謝いたします。

抗癌剤の副作用で脱毛すること自体覚悟はしていましたが、こんな姿になるなんて
思ってもいませんでした。残酷です。私自身より驚いたのが20代の息子でした。
ショックだったのか言葉が出ず涙していました。理解するまでに少し時間がかかった
様です。あと2回の抗癌剤投与。その後5年間のホルモン療法治療の予定です。
抗癌剤を投与後1週間位は体調が優れず、ただでさえ気分が滅入る中、鏡
を見るとさらに気が滅入っていました。医療用でないウィッグを付けても違和感があり、
外へ行くという気にもなりません。

今回の医療用ウィッグを試着した時、艶やかで軽く、さらさらした手触りにまず驚き
鏡を見てその自然な風合いに、以前の自分を取り戻したように思い嬉しさが

こみ上げてきました。これからは素敵なウィッグを付けて周りを気にせず
外出を楽しみたいです。大切に大切に使用させていただきます。
ありがとうございます。



本当にありがとうございます。

私は17年下の夫と4年前に結婚して

子供が3才です。普通に

若作りをしなきゃ、まわりの40代より元気でいなきゃと
思ってる日々の中、ガンになり、すべてが申し分なく、
ウィッグもかぶれば良いというわけにいかず、おばさん
に見えちゃうならとかくだらない事を考え、ウィッグを
買う事ができませんでした。でも今回のお話しを頂いて
試着をさせてもらい若い学生さんの毛、なんか若さを
もらった気もして、ウィッグをかぶる気持ちになりました。

大切にケアして作って頂いたウィッグ 私も大切に
使わせてもらいます。

本当にありがとうございます。

9月に開腹手術をして、現在は抗がん剤治療中です。

術後から現在までの数ヶ月間はメイクやオシャレをして外出する事は一度もなく、洋服は身体を締めつけない楽な服装で、帽子をかぶり、あひんにマスクで通院や外出をしています。以前の私は近所に行く時でも髪をセトリ、メイクをしていたので、癌になってからの自分は以前とは別人でした。

脱毛は治療前から説明されていたので、治療が終われば必ず髪は生える!!と前向きに考えていましたが、やはりジリジリと髪が抜けた時はショックでした。

先日ウィッグの試着をする為に久しぶりにメイクをして外出しました。

そしてウィッグは想像以上に自然で素敵でした。メイクをして髪の色がある自分の姿を久しぶりに見て、本当に気持ちが良いなりました。

まだまだ治療が続きますが、頂いたウィッグのおかげでオシャレをしてどんどん外出をしたいと思っています。

若い方々さんへ、半年もの長い間、パーマやカラーといったオシャレをする事が出来ず、他人の為に髪の色をリヤレ、その大切な髪の色を提供する事は本当に大変で素晴らしい事だと思っています。

大切に使用させていただきます。本当にありがとうございます。

私は今 現役の看護婦です。

以前より「平井のプロジェクト」を知っていました。

が、私もこの自分の「使命」についてどう思う？ 降参って
受け入れられるんです。この自分だけは 必要看護を始めた
後には 死ぬのでは？ うーん 必要と 思っています。

自分は看護婦であり、患者という 命を 守りたいんです。

現任は 治療を続けながら 戦場の 後方支援に 従事しています。

大抵の 提供（血や薬）を つけて 看護婦という 仕事に
（それ）をも、この 戦場の 看護に 従事しています。

でも 看護士の 命を 守りたいです。

外出する 機会も 十分に あります。 医療の 現場で 働く
自分 頑張っています。 おれおれ

本当に ありがとう ございます。



この度このような形で ウィッグの提供を受けることを
たいへんありがたく思っています。

予めわかっていたとは言え、洗髪のたびに 髪の毛が
束になって抜け落ちてゆくのは 辛い体験でした。

お風呂に入るのがいやでなりませんでした。

ウィッグは大変高価なものですから、自前で購入する
ことは考えていませんでした。

看護師学校の生徒の方々が、ご自身の髪の毛を
提供してくださると聞き、たいへん驚いております。大切
な髪の毛を見知らぬ私にくださるのでから。

いよいよお礼を申し上げます。闘病は続きますか？

ウィッグが私を支えてくれると思います。

ありがとうございました。



先日お医者さんよりキレイのカプロジェクトのご紹介を頂き、
申込みするにともなう早速ウィングをいただける事となりました。
お聞きするとうろ若いわ嬢様方の大切な髪と慈善の心にて
ご提供されたものとの事、心より感謝申し上げます。三ヶ月前ま
で地域活動などで忙しく飛ぶまわっていたが、まさかの闘病生活に
苦しみ耐えて来すに、お医者さんから頭髮の件は聞かされたも
の、老いた自分とは言え女性である事に変りなく鏡の中の
姿は余りにもショック、隠せませんでした。プロジェクトの方々に
ウィングを試着させていただき、まことに色々な説明を受けなが
ら心のぬくもりを感じました。いたたくウィングで病院の行き帰
り、又見舞いする方々などと以前同様、臆することなく笑顔で
接することが出来ます。これから長く病との闘いなが
ら、ご検やかな余生を送りようります。
看護学生さん、そしてご協力頂いた皆さんに心から御礼
を申し上げます。



最初に髪が ぬけた時から 60歳 すぎているので
ウイックは おきだめていました。

でも今回、お話を いただき、

私にわ.もったいないほどのウイックです。

本当に ありがとうございました。



**看護学生さんからの患者さんへの
直筆メッセージ**

2016年12月2日昭和大学病院ウィング贈呈メッセージ交換時



今回、このプロジェクトに参加し、自身の腕も提供するという
形で患者さまのお役に立てたことをうれしく思います。

腕が自分の大切な身体の一部であり、自分も表現あるうえで
重要なものである事を実感する機会にもなりました。

ウィップも使用することで、少しでも前向きな気持ちになれたり
活動力の1つとなり、何かしてみようと思えるきっかけになれたら
とてもだと感じています。

プロジェクトを通じて素晴らしい経験もさせていただき

ありがとうございました。

「キレの力」プロジェクトを知り、興味を持ったことがきっかけです。
学生の私たちでも何かできることがないか考えた時
今回のプロジェクトに参加することが役に立てたらいいなと思います。
ハアヒアとしながら思ったことは、「本当に私の臂がいいのかな。」
と少し考えはしましたが、喜んでいただけると嬉しいです。
私たちは成人式の前に臂を切ることにしました。しかし、
皆 後悔はしてなく、本当に役に立たないと思わず参加しています。
自分らしい堂々と歩いてほしいです。

今回このような貴重な体験をさせていただき
ありがとうございました。

今回髪を寄付させていただきありがとうございます。
私はまだ学生で、看護の勉強をしているにもか
かわらず、何もできることがないので、今回
このような機会をいただき、少しでもお力に
ことにとらわれしく思っています。

髪をクアしているとき、病気のつらさについて、
とらも考えました。私の想像以上に大変な思い
をされていると思います。

今回のことをふれず、これからも勉強に励み、
患者さんを支えられる看護師にしていきたいと
思います、ありがとうございます。

私はこのプロジェクトがあると聞いたとき、看護学生にしか出来ないこと、
看護学生として力になれることがあるならば、ぜひ参加して少しでも
誰かの助けになればいいなという思いで参加を決めました。

もともと私の髪質は細くて痛みやすいものだったので、最初は
提供するのにはあきらめようかと思っていたのですが、ヘアケアをしていく
うちに、髪が痛みないようになっていき、同様に私の気持ちも、もとき不
して提供したいという気持ちになっていきました。

このウイングを使って、これからの人生が、明るく、輝かしいものになっ
て欲しいという願いで、髪を切らせていただきました。

この機会に、何か前向きに頑張ろうという気持ちになって
これからの人生を歩んでいきたいだけなら幸いです。

今回 この「キレイのか」プロジェクトに参加させていただき、
私自身 レモ貴重な経験をすることができました。

毎日ケアした髪の毛びっくられたウィッグを患者さん
にお届けすることができたことを本当に嬉しく思います。
大トリップを込めてケアしたので、使っただけでも嬉
しいです。

今回ハニの貴重な経験を今後の生活、そして看護人生
に活かしていきたいと思ひます。
今回は本当にありがとうございました。

今回、このプロジェクトに参加し、勉強になり、良い
経験が出来たと思ひました。

また、学生ではありましたが、何か力になることは出来ないか
と考えるこのプロジェクトに参加しました。

私は、癌になったことはありませんが、同じ女性として
「髪がない」という気持ちには想像できました。とても辛いこ
思ひました。

髪を切るまでは、何年か辛い時期もありましたが、私は髪を長から
びすし、患者さんが笑顔で過ごせると思ひました。とら...と考える。
頑張りました。

ぜひ、使ってください。 ありがとうございます。

■テレビ：2016年12月2日（金）NHK首都圏ニュース845/12月3日（土）BSニュース 1:50～/3:50～/



昭和大学病院でのウィッグ贈呈式の現場、看護学生、患者さん、それぞれの思いについても取材いただきました。

■掲載紙：月刊H&Bリテイル 平成29年3月号

平成 29 年 3 月号

月刊H&Bリテイル 17

「キレイの力」PT、がん治療中の患者にウィッグを無料で提供

がん治療中の女性に医療用ウィッグを無料で贈り、治療に向かう気持ちを支えることをコンセプトに活動している団体がある。NPO 法人「キレイの力」プロジェクトだ。

このプロジェクトは2008年にスタートし9年目になる2016年12月、がん患者にウィッグが贈られた。このウィッグは、「ウィッグサポーター」と呼ばれる看護学生たちが、約半年間にわたりヘアケアをしながら伸ばし蓄付した髪が使用された。

ウィッグは、都内品川区の昭和大学病院で治療中の女性に、髪を提供した看護学生からのメッセージが添えられ贈呈された。

「子供の行事にウィッグをつけて出席したい」「脱毛した自分の姿を見るたびに落胆し、友人・知人にも会わないようにしていた。ウィッグをつけて友人・知人に会えるようになりたい」

こうしたがん患者の希望を叶えてくれた贈呈式では、看護学生が立ち会った。ウィッグを着用した田嶋

郁（たじまかおる）さんの目に大粒の涙、そして笑顔で感謝の言葉を看護学生や関係者に述べていたのが印象的だった。

「キレイの力」プロジェクトは、がん患者の治療と生活を支えるNPO 法人「キレイの力」プロジェクトが主催し、看護学生の毎日のヘアケアにP&G パンテーン製品が提供され、ウィッグは株式会社スヴェンソンが製作。2008年から2016年に累計370名にウィッグが贈呈されている。



看護学生と相談する田嶋郁さん（右）



田嶋郁さん（前列右）と看護学生・関係者

連載

『ドラッグストアのヘルスケア戦略』

③がん患者のためのケアコーナー

二人に一人が、がんに罹患する時代。手術、抗がん剤、放射線の三大療法に加え近年では免疫療法もクローズアップされ、生存率も高くなってきた。しかし、乳がん患者が乳房の全摘手術や化学療法による副作用で頭髪が抜けた女性の心のケアとともに、人工パッドやウイング、補正下着といったケア用品も不可欠になる。しかし、実際にがん患者のためのケア用品を入手しようとなると、取り扱う企業や購入する専門店が少ないのが現状だ。今回から、がん患者のためのケアコーナーを取り上げる。

がん患者の副作用ケアのカタログ&首都圏に17か所の相談コーナー

ところでがん患者のためのウィッグなどのケア用品は、どこで入手することができるのだろうか。

『PreSta（プレスタ）』という冊子がある。医療用ウィッグ、術後初期の傷を保護するパッド、人目を気にせずに手術後をさりげなくカバーしてくれる入浴着、術後2～3か月のブラジャーなどの下着類等々が掲載されている。治療が決まった患者と家族のための副作用ケアの総合カタログだ。

この冊子には、こう記されている。

「年間14,000人の患者さまと接して思うこと。それは同じ治療・同じお薬の服用であっても、家族構成・生活スタイル・性格・感じ方によって不安や悩みは十人十色。だからこそ、私たちは一人ひとりの声を心から聴くこと。そして必要としている情報やモノを探し提供すること。患者さまとそのご家族の方の日々の生活に少しでも役立つことができればうれしい。少しでも不安が安心に変わってくれたらうれしい」

患者と家族は、「キレイの力」プロジェクトに参加しているスヴェンソンが開発するプレスタコーナーに行けば、このカタログに掲載されている一部商品を手に取り試すことができる。

コーナーは、首都圏に17か所。専門スタッフが待機し幅広い知識でさまざまな相談に応じてくれる。（続く）

媒体詳細

読者層：小売業、医療提供施設や介護事業者の経営陣 他

発行部数：約50,000部

発行日：月1回（毎月月末）

版型：タブロイド判

発行元：株式会社ヘルスビジネスマガジン社

2017年度ウィッグ・サポーター活動 実施報告

<実施概要>

2017年のウィッグ贈呈活動に向けて、2016年10月～2015年12月にかけて全国の看護学校7校にて説明会を実施。778名の看護学校に対して、プロジェクトの紹介とウィッグサポーターへの呼びかけを行い、合計90名がサポーター活動を開始した。在校生は6～7月のカットに向けて現在活動中。
パンテーンは説明会参加者へ配布、サポーター活動参加者には1月、4月の2回に分けて配布する予定。

<説明会実施日・実施校>

日時	場所	説明会参加人数	プロジェクト参加人数
10月25日 (火)	昭和大学医学部附属看護専門学校	159	4
10月31日 (月)	国立病院機構岡山医療センター附属 岡山看護助産学校	130	11
11月16日 (水)	東都医療大学	140	16
12月1日(木)	深谷大里看護専門学校	45	1
12月16日 (金)	藤田保健衛生大学看護専門学校	78	26
12月21日 (水)	聖マリアンナ医科大学看護専門学校	59	6
12月21日 (水)	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター附属岩国看護学校	167	26
合計	7校	778名	90名

<説明会様子>



藤田保健衛生大学看護専門学校では西村徳代校長先生より娘さんが乳がんを患い、脱毛で悩んでいたがウィッグ救われたというお話もしていただきました。

